

転倒災害の発生状況



真岡労働基準監督署管内の転倒災害は、事故の型のうちで最も多く、第三次産業をはじめとする全産業で発生しており、**労働災害全体の2割以上**を占めています。

令和5年の転倒災害は、**11月末速報値で前年同期比約10%増**の状況となっており、**約半分が第三次産業で発生**しています。

転倒災害は、**通路、作業床、階段等を中心に発生**しており、これらだけで、転倒災害全体の約3分の2を占めます。

高齢労働者ほど転倒災害のリスクが増加します。

転倒により被災した労働者のうち**50歳以上は3分の2**を占め、労働災害全体における割合（約45%）よりも高くなっています。

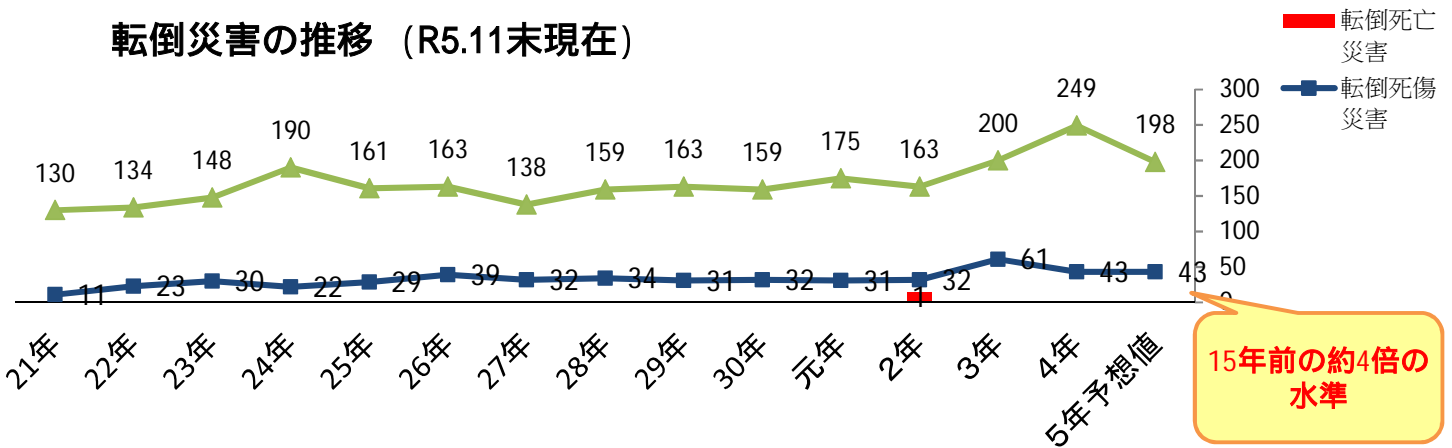
転倒により被災した労働者のうち**女性は54%**を占め、労働災害全体における割合（34%）よりも高くなっています。

転倒災害のうち**経験年数1年未満は18%**となっています。

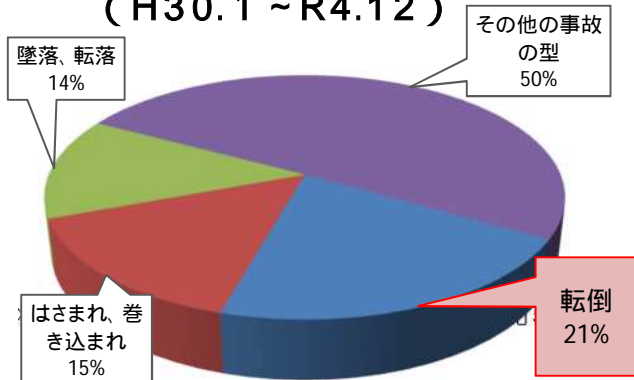
転倒災害のうち**休業1か月以上は約70%**で、労働災害全体に占める割合（51%）よりも高くなっています。

通路等に起因する転倒災害は、**冬季に増える傾向**にあります。

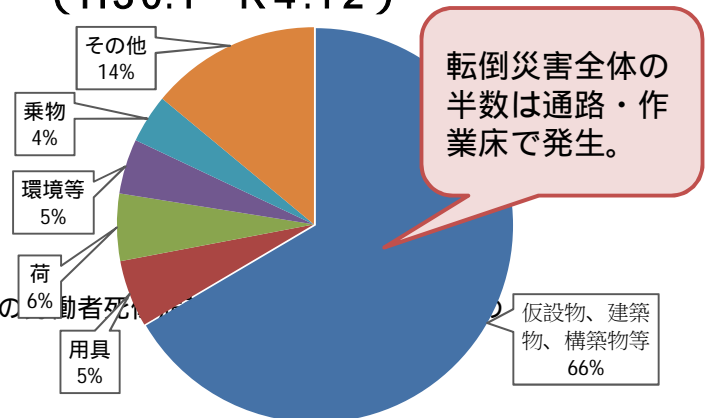
転倒災害の推移（R5.11末現在）



事故の型別 労働災害発生状況（H30.1～R4.12）

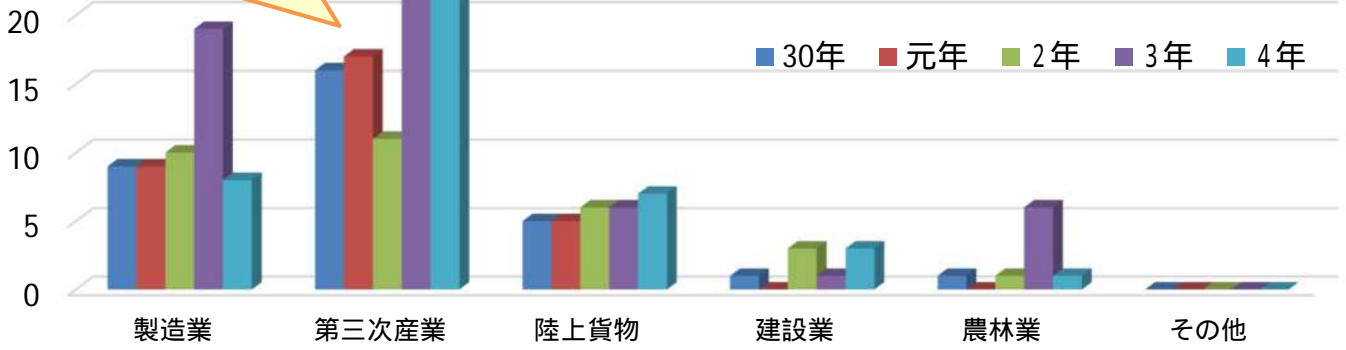


転倒災害の起因物別内訳（H30.1～R4.12）



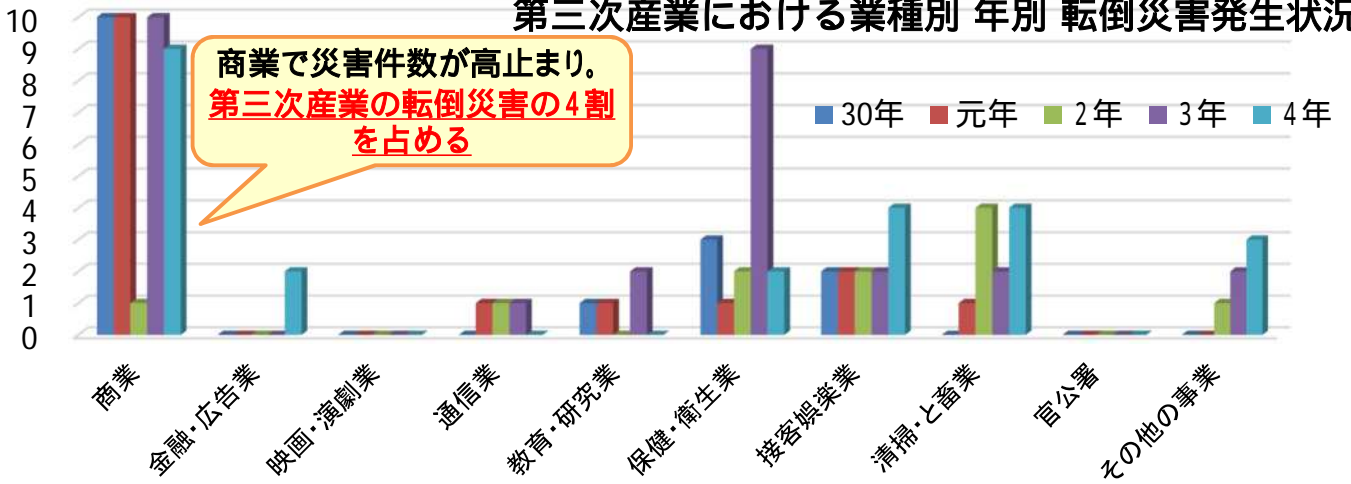
業種別 年別 転倒災害発生状況

第三次産業で多発！
転倒災害全体の約50%



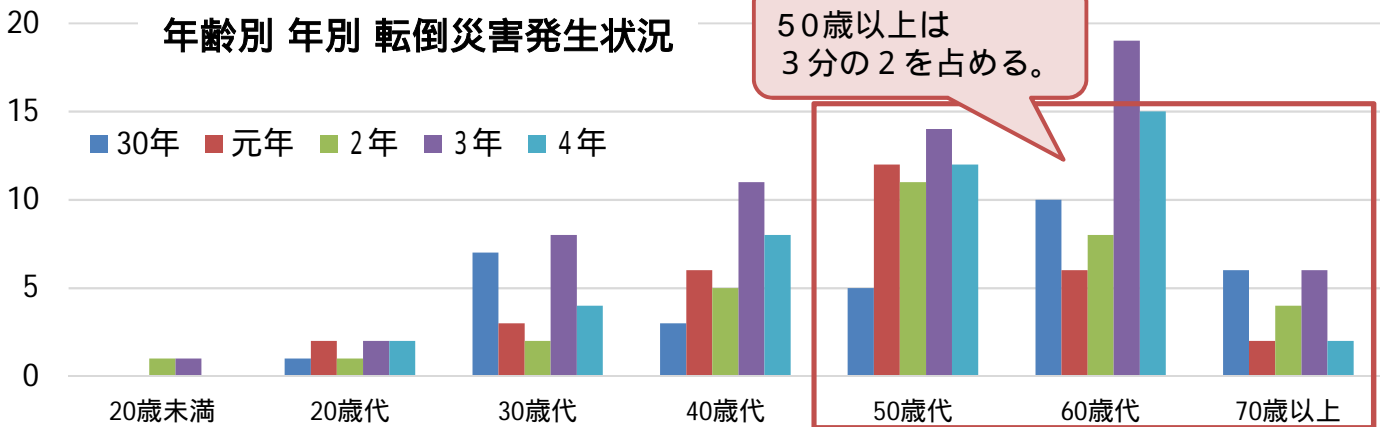
第三次産業における業種別 年別 転倒災害発生状況

商業で災害件数が高止まり。
第三次産業の転倒災害の4割を占める

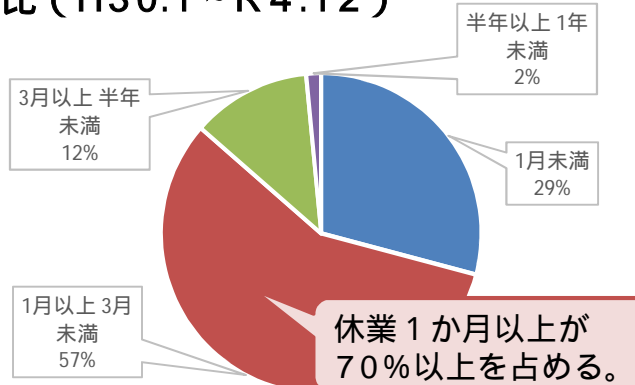
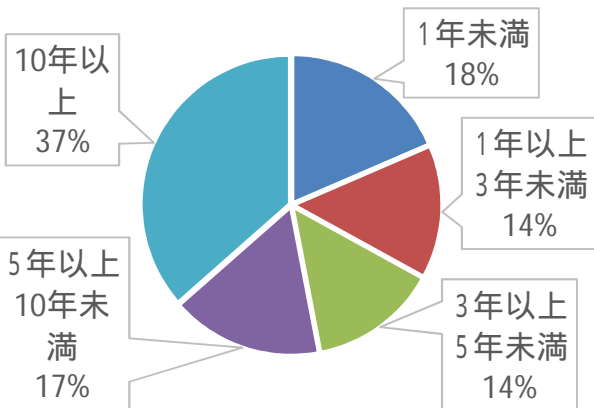


年齢別 年別 転倒災害発生状況

50歳以上は
3分の2を占める。



経験年数別 被災程度別 構成比 (H30.1 ~ R4.12)



休業1か月以上が
70%以上を占める。